

大 防 第 1015号
平成21年6月29日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したの送付します。

病虫害発生予報第3号(7月)

平成21年6月29日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
水稻	いもち病	△～□
	縞葉枯病・ヒメトビウンカ	□
	ニカメイガ	▲
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	□
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	○
ぶどう	べと病	△
	チャノキイロアザミウマ	□
	ハダニ類	○
	アメリカシロヒトリ	○
みかん	黒点病	□
	そうか病	△
	ミカンハダニ	□
もも	せん孔細菌病	□
	アブラムシ類	□

いちじく	疫病	□
	アザミウマ類	●
	イチジクヒトリモドキ	○
	フジコナカイガラムシ	○
なす	すすかび病	□
	うどんこ病	△
	褐色腐敗病	□
	ミナミキイロアザミウマ	○
トマト	灰色かび病	□
	葉かび病	○
非結球あぶらな科葉菜類 (大阪しろな、こまつな等)	コナガ類	▲
野菜・花き類	アブラムシ類	□
	アザミウマ類	□
	シロイチモジヨトウ	△
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	□
	ハモグリバエ類	△
	コナジラミ類	○
きく	黒斑病・褐斑病	△
	白さび病	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

6月気象予報(大阪管区气象台5月22日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	50	30
降水量	30	40	30

日照時間 30 40 30

A 水稲

【いもち病】

[予報内容]発生量:やや少ない～並

[予報の根拠]

(1)7月の降水量は少なく、日照時間は平年並と予想されている。

(2)昨年度、予察ほ場での発生はやや多かった。

(3)植物防疫協力員からの報告でも、発生無か少発生である。

[防除上考慮すべき事項]

(1)置き苗が発生源になるので、早く処分する。

(2)天候の変化に注意し、発病を認めたら直ちに、オリゼメート粒剤等で防除を徹底する。

[メモ]

・低温、多雨、密植、窒素過多で発病が多くなる。

【縞葉枯病(ヒメビウンカ)】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)ヒメビウンカの予察灯への飛来は平年同様少ない。

(2)近年、西日本で増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生が多いほ場では、トレボン粒剤やスタークル顆粒水溶剤等でヒメビウンカの防除を徹底する。

[メモ]

(1)本病はヒメビウンカによって媒介されるウイルス病で、6月下旬～7月上旬の感染が多い。

生育初期に発病すると葉が「こより状」に巻いて垂れ下がり、その後枯れる。

【ニカメイチュウ】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップの誘殺虫数は少ない。

(2)予察灯への飛来は平年同様見られない。

(3)昨年度、予察ほ場での発生は少なかった。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)発生が見られる場合には、パダン粒剤またはトレボン粒剤等で防除する。

【セジロウンカ】

〔予報内容〕発生量：並

〔予報の根拠〕

(1)6月下旬までに、予察灯への飛来は平年同様見られない。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)異常飛来があった場合は、急激に密度が高まる恐れがあるので、今後の電子メールサービス等の病害虫発生予察情報に注意する。

(2)発生が多い場合は、トレボン粒剤やスタークル顆粒水溶剤等で防除する。

〔メモ〕

(1)セジロウンカのプリンス粒剤に対する感受性低下が問題となっている。

【ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)】

〔予報内容〕発生量：並

〔予報の根拠〕

(1)近年、府内北部・中部地域に発生が拡大している。

(2)昨年度、府内での発生は平年並であった。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)水深4cm以下の浅水管理をする。

(2)田植後20日以内の苗が食害されるので、この時期の防除を徹底する。

(3)桃色の卵塊を水中へ掻き落とし、成貝は捕殺する。

(4)発生が多い場合はスクミノン(収穫90日前まで)を施用する。

【イネアオムシ(フタオビコヤガ)】

〔予報内容〕発生量：やや多い 発生時期：やや早い

〔予報の根拠〕

(1)昨年度、予察ほ場での発生はやや多かった。

(2)6月の巡回調査において、平年より早く発生が認められた。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)プリンス粒剤の効果はやや低い。

(3)発生が多い場合には、エルサン乳剤、MR.ジョーカーEW等で防除する。

B 果樹

1 ぶどう(デラウェア)

【べと病】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では、発生は見られなかった。

(2)今後気温はやや高めに推移すると予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)巨峰やピオーネ等品種はデラウェアよりべと病に弱い。

(2)ハウスでは被覆を除去した場所から発生しやすい。

(3)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

(1)5月～10月にかけて、降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。

【チャノキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(2)黄色粘着トラップの誘殺虫数は平年並だった。

【ハダニ類】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では、発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)加温栽培で発生が多い。夏期にビニルを張ったままのハウスでは特に発生が多い。

(2)収穫終了後のぶどう園も定期的に観察して、発生に注意する。

(3)除草した後に、下草にいたハダニ類がぶどうに移動することがあるので注意する。

【アメリカシロヒトリ】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査で発生が確認されている。
- (2)街路樹等での発生が多い。

2 みかん

【黒点病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[メモ]

- (1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)前年度発生が多かった園では、梅雨前に防除を行う。

【ミカンハダニ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月後半の巡回調査では、発生量はやや少なかった。

- (2)例年、梅雨明け後に多発する傾向がある。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。
- (2)合成ピレスロイド系の殺虫剤(アディオオン等)は、天敵を減らすため、多用するとハダニ類増加を招く恐れがある。

3 もも

【せん孔細菌病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査では、発生量は平年並だった。

- (2)7月の降水量は、平年並と予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)多発すると防除が困難となるので、早期防除を心掛ける。
- (2)強い風雨後の発生に十分注意する。

【アブラムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査では、平年どおり発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)アブラムシが発生するとウイルス病などを伝染させる恐れがある。

4 いちじく

【疫病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査では平年どおり発生は見られなかった。

- (2)例年、収穫期が近づく7月末から発生が多い。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)泥の跳ね上がりを防ぐために、ビニルマルチや敷きわらを設置する。
- (2)園内の水はけをよくする。
- (3)腐敗した果実は園外に持ち出して処分する。

【アザミウマ類】

[予報内容]発生量:多い

[予報の根拠]

- (1)6月の青色粘着トラップでの誘殺虫数は多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)6月8日に注意報を発表している。

【イチジクヒトリモドキ】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

- (1)6月の巡回調査でも、卵塊、若齢幼虫が確認された。

- (2)昨年度の調査で府内で広く発生が確認された。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)第2世代の幼虫の発生時期が7月頃と思われる。

(2)イヌビワなども食害を受けるので、発生源となる可能性がある。

【フジコナカイガラムシ】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)6月下旬の巡回調査で発生が見られた。

5 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップの誘殺数は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生状況は園による差が大きい。

(2)もも、かきなどの果樹が被害を受けやすい。

C 野菜類

1 なす

【すすかび病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では、ハウスでは平年より少なく、露地では平年より

やや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ストロビルリン系薬剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル)の効果が低下している。

(2)病葉は早めに摘除し、ほ場外に持ち出し処分する。

(3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には、葉の裏にもかかるように

丁寧に薬剤散布を行う。

(4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(メモ)

・すすかび病は多湿条件下や樹勢が低下したときに発生が多くなる。

【うどんこ病】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では、ハウスでは平年よりやや少なく、露地では平年と同様に発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)樹勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

(メモ)

・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【褐色腐敗病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では、発生は平年と同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病した枝や果実は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。

(2)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。

(3)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では、発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)一部で発生が多い。

(2)吸汁被害の他、トマト黄化えそウイルス(TSWV)などのウイルス病を媒介する。

(3)抵抗性の発達を防ぐため、複数の薬剤をローテーション散布する。

2 トマト

【葉かび病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)病葉は早めに摘除し、ハウス外に持ち出し処分する。
- (2)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には、葉の裏にもかかるようにていねいに薬剤散布を行う。
- (3)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(メモ)

- (1)葉かび病は多湿条件下や樹勢が低下したときに発生が多くなる。

【疫病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月後半の巡回調査では、平年と同様発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病した枝や果実は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。
- (2)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。
- (3)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

3 非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)

【コナガ】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

- (1)6月のフェロモントラップへの誘殺虫数は少なかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)発生初期の防除を徹底する。

D 野菜・花き類

【アブラムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)6月後半のなす、きく巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)6月の黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

【アザミウマ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では発生はやや少なく、水なすの花たたきによる調査では、発生は平年並であった。

(2)6月後半の青色粘着トラップ(きく)への誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(2)薬剤散布は葉の裏にまでかかるように丁寧に行う。

(3)ビニル等で畝をマルチングし、アザミウマが土中で蛹化するのを防ぐ。

(4)きくでは塊割れ(つぼみが割れてきて花弁が着色する状態)前後の防除を徹底する。

(5)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかにほ場から持ち出し

処分する。

(メモ)

・ミカンキイロアザミウマは作物を吸汁加害するだけでなく、ウイルス病(TS WV)を媒介する。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハスモンヨトウ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並であった。

防除上考慮すべき事項

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)6月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(3)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハモグリバエ類】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月後半の巡回調査では発生はやや少なかった。

防除上考慮すべき事項

(1)被害葉や残さは、ほ場から持ち出し、ビニルで覆い、寄生幼虫を太陽熱で蒸し殺す。

(2)しゅんぎくや大阪しろな等の軟弱野菜では、収穫後に地表面をビニル被覆し、太陽熱により土中の蛹を殺すことで、次作の被害を軽減できる(4～10月の間可能)。

【コナジラミ類】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では、ハウストマト及びハウスなすで、やや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス(TYL CV)を媒介する。

(2)発生初期の防除に努める。

(3)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(4)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を阻止する。

- (5)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (6)ほ場周辺の除草にも努める。

E 花き類

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では発生が見られなかった。

【白さび病】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)6月の巡回調査では発生が見られなかった。

●大阪府病虫害防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/osaka>

最新の防除指針を掲載しています(毎月アップデート)

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府病虫害防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>
(社団法人大阪府植物防疫協会)